

●家庭における紙パックの再活用の実態● (2017年度消費者インターネットアンケート調査概要)

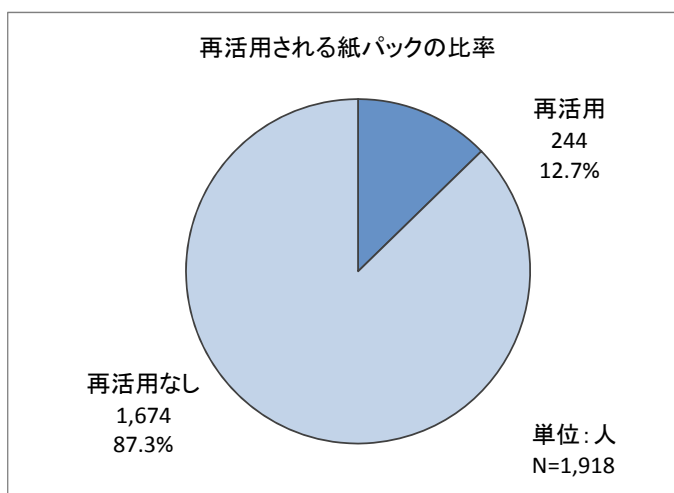
飲料用紙パックの家庭内再活用に関して、できるだけ無作為抽出に近く、バイアスを減らす等の工夫をした消費者インターネットアンケート調査を実施し、再活用の実態を把握しました。

調査実施時期	: 2017年2月と同年10月の2回に分けて実施
調査対象紙パック	: 牛乳1000mlの紙パック(容器重量で飲料用紙パックの半分を占める。)
調査対象者	: 北海道から福岡県まで9都道府県の20~60代の男女、2,404人 (対象の9都道府県で全国人口の54%を占める。)

【1】家庭で消費される牛乳1000ml紙パックの1割以上が再活用される。

再活用される紙パックは有効回答全体の12.7%に達しました。

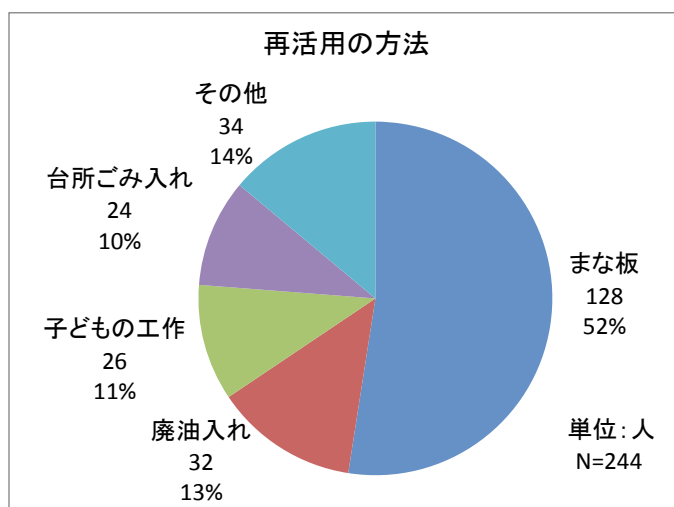
調査では、対象の2,404人のうち自分でリサイクルや廃棄、再活用などの処理をした1,918人を有効回答としました。対象とした紙パックは、家庭で飲み終わった牛乳1000mlです。思い込みの回答を避けるために直近の一枚の処理を聞いています。つまり、自分で処理をした1,918人のうち244人が再活用したことになります。



【2】半分強がまな板として再活用される。

再活用した244人のうち、半数以上はまな板代わりにしています。

まな板はあらゆる年代層で再活用の半数以上を占めます。なお、30代の回答者の家庭では「子どもの工作」材料としての使用が3割近くありました。

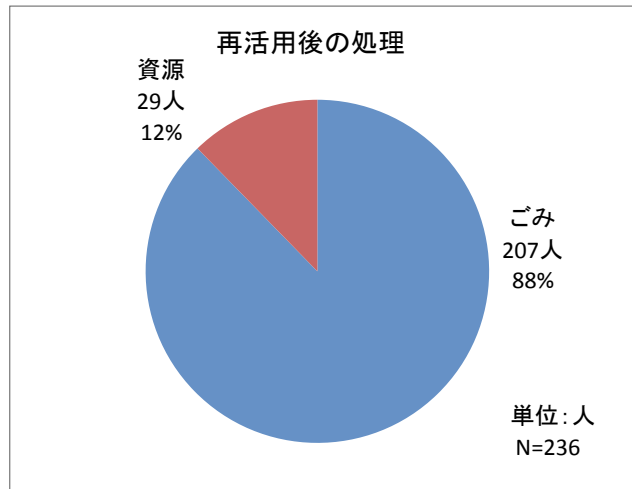


← 雪印メグミルク株式会社 HP より
<http://www.meg-snow.com/fun/make/idea/>

【3】再活用した紙パックの大多数はごみとして廃棄される。

まな板などに再活用された紙パックの9割近くはごみとして廃棄されます。

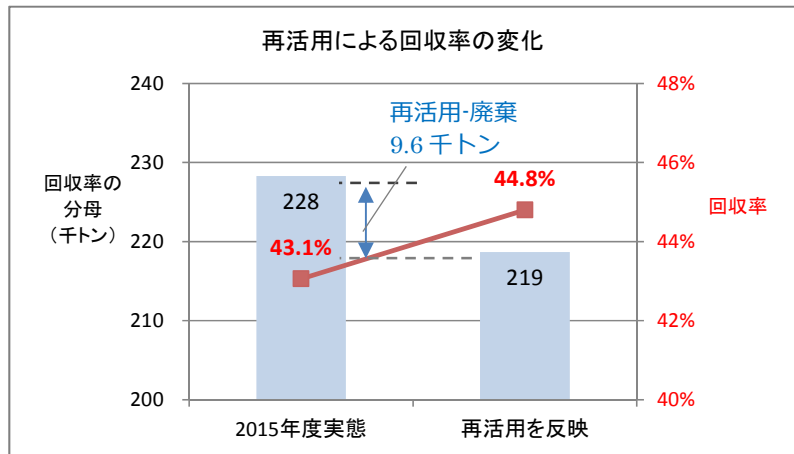
なお、再活用者244人のうち8人はまだ処理をしていない、取ってあるなどで、ここではこれら8人を除いて再活用後の処理の比率を求めています。



【4】再活用される紙パックの量は回収率に影響を与えるほどに大きい。

家庭で消費される牛乳1000mlの紙パックは、2015年度で約86.5千トンでした。

再活用率を12.7%とすると再活用量は11.0千トンになり、再活用後に廃棄されたのは、そのうちの88%ですので9.6千トンになります。ちなみに枚数に換算すると3億枚になります。



ここでは、再活用後に廃棄された紙パックはリサイクル困難とみなし、回収率の分母から引いてみます。すると2015年度における飲料用紙パックの回収率は、43.1%から44.8%に変わります。

容環協が過去に実施した調査では、15%以上の紙パックが再活用されることが示唆されていました。また、他の調査からも多くの紙パックが再活用されていることが推測できました。そこで2017年度は、できるだけ代表性を持つ回答者を抽出するとともに、牛乳1000mlだけに絞ることで答えやすくするなど、インターネットアンケート固有の回答特性の排除など様々な工夫をした調査を実施しました。

なお、リサイクルできない紙パックを分母から差し引くという考え方は、資源循環指標調査検討委員会「資源循環指標 策定ガイドライン」(平成14年6月)を参考にしています。

(調査: 株式会社エコイブス)